

平成29年度 第2回千葉県社会福祉審議会 老人福祉専門分科会開催結果

- 1 日時：平成29年11月13日(月) 14時00分～16時00分
- 2 場所：ホテルポートプラザちば 2階 ルビー
- 3 出席委員：(15名中9名出席)
大河原委員、大澤委員、大坪委員、白戸委員、菅谷委員、田邊委員、野口委員、林委員、藤野委員(五十音順)

4 会議次第

- (1) 開会
- (2) あいさつ
- (3) 議題
 - ① 分科会会長の選任及び会長代行の指名
 - ② 千葉県高齢者保健福祉計画について
 - ③ 次期千葉県高齢者保健福祉計画について
- (4) 報告事項
 - ① 生涯大学校マスタープランについて
- (5) 閉会

5 議事概要

(1) 議題

①分科会長の選任及び会長代行の指名

田邊信行委員を分科会長に選出し、菅谷長藏委員を会長代行に指名した。

「次期高齢者保健福祉計画について」を諮問事項とし、

②千葉県高齢者保健福祉計画について、資料2、資料3-1、資料3-2、資料3-3により説明

③次期千葉県高齢者保健福祉計画について、資料4、資料5、資料6-1、資料6-2、資料7、資料8により説明

(委員)

千葉県の場合、施設の増加率が多いと思うが離職率について、新しい会社や施設が家の近くに来るので、移動するケースも多いと思う。

単純に離職したのではなく、他の施設で働いていた方が入ってくる場合は、差し引いたデータ分析をしないとイケない。

(事務局)

そういったものも含め離職率だとは思いますが、そのような調査を行っている機

関はない。

(委員)

離職率が高い高いと言うとマイナスイメージになり、介護職に行く人が少なくなる可能性もあるので気を付けなければならない。

(委員)

離職率ではなく介護職員はどのくらい増えているのか。

平成20年、平成25年、平成28年などで介護職員がどれだけ増えているかも大事となる。ある地域では、産業がなく介護職員が増えているところもある。そういったところも検討してほしい。

(事務局) 資料3-2 P3 介護保険関係介護職員の数について

介護職員の数を載せており、職員は増加傾向の見込みである。

(委員)

県南部・東部ではすでに高齢化率も高く、この3年間でさらに進み、限界集落が拡大していくと思うが、そういった地域の市町村の支援はどのような形で盛り込まれているのか。

(事務局)

市町村・地域によって状況が違うので、県として市町村の困りごとを助けるため、保健医療圏域を回り地域の実情など意見交換するため連絡会議を開催している。計画全般的に、市町村に対する支援という認識をもって取り組んでいる。

(委員) 資料6-1 P1 介護給付適正化計画の実施状況について

ケアプラン点検の事業について、金額も件数も多いので内訳を教えてください。

(事務局)

ケアプランの点検について、金額が昨年に比べ高額になっているので調べたところ、千葉市の件数と金額が突出した。力を入れて実施した成果が出ている。他の市町村も重点的に見て頂きたいと思っている。

(委員)

老人クラブの活動は健康に関連しているものばかりで、予防介護に力を入れ

ていただきたい。予防というのは認知症でも健康な高齢者をつくるのにも効果がある。予防的な活動の評価は数値が出ないところがあるが、そのあたりの活性化ということで御説明頂きたい。

(事務局) 資料5 P36 ②介護予防及び重度化防止の推進について

介護予防重度化防止は、国でも重点的に取組む内容としており、例えば和光市はモデルケースとして、介護予防に取り組んだところ要介護の認定率が下がったという実績があり、各市町村が介護予防重度化防止に取り組んだ場合、インセンティブとして交付金を支給するという改正を行うこととしている。

県としても目標を立てて、介護予防重度化防止に取り組んでいくことを示している。市町村支援として、今年度、富津市と茂原市をモデル市として、地域ケア会議の個別会議を来年度まで毎月開催し、重度化しないよう個人を支援していく事業を進めている。

(委員)

重度化というと相当悪くなった人を指導するということか。

(事務局)

悪くなるのを防止するという意味で、現在は要支援の方になる。

(委員) 資料5 P69 福祉人材育成の介護福祉士等養成校について

介護福祉士の養成校の定員が減ってきている。この産業は人が足りなく、人の取り合いになってしまい、待遇を上げないといけないと思う。EPAについて、11月から技能実習が始まる。外国人の介護士の方も必要になってきているが、それについてはどう考えているのか。

また、介護ロボットについて、介護人材というのは、いろいろな機器を使って支援していかなければ在宅・施設でも難しいと思う。人材・機器の問題を県としてどう考えているのか。

(事務局) 資料5 P72 人材確保関係について

外国人の受け入れ、介護福祉士の養成についての新たな支援について検討中と記載してあるが、県として11月からの技能実習と9月から認められた在留資格介護について、具体的な制度の周知や日本語支援が必要であると認識はしている。現在、30年度当初予算要求段階で検討中としているが、決まれば具体的内容を記載する。

資料5 74頁 介護ロボットについて

介護従事者の負担軽減に資する介護ロボットを導入する介護事業所等に対しその経費の一部を補助している。1件20万円以上の機器を入れた場合10万円を限度としており、見守りだと10万円程で足りるケースが多いが、ロボットスーツにも適用できるように限度額を上げて欲しいことと、施設に限らずもっと広げられないかと厚生労働省に話をしている。

(委員)

技能実習に関連して、千葉県介護福祉士会は、指導員の講習会を1月14日に開催する予定となっている。ホームページでも公表しているのでよろしくお願いします。

(委員)

介護の魅力PRの commercials を発表したようだが、人材支援の効果は出ているのか。

(事務局)

11月に介護の commercials というので、11月の介護の日のイベント、就職セミナー、電車の中でPRをしている。少しでも介護職員のイメージアップの一助になればと思っており、引き続きやっていきたいと考えている。

(委員) 資料7 P1 I-2の8 指標案について

「健康づくりに取り組むことができる環境にあると感じてる県民の割合」の調査は県民世論調査で取るのか。

(事務局)

県政の世論調査で回答することとしている。

(委員)

表現が曖昧で、「健康づくりに取り組むことができる環境にある」と「実際に健康づくりに取り組んでいる」とは根本的に違うと思う。環境にあるという人はかなり多く、実際にやっているかどうかは違うと思うがどう考えているのか。

(事務局)

指標は、実際参加している・取り組んでいる等の指標が適切だと考えているが、次期総合計画等の他の計画に掲載されているものと整合性を図るためこの

指標を使用している。I-2-10に「介護予防に資する住民運営による通いの場への参加人数」とあり、そこで把握していきたいと考えている。

(委員)

市町村によって過密のところ過疎のところがある。行政体制も全く違うので、できるだけ市町村の相談に乗り対応していただきたい。同じ県民なので同じサービスを受けてもらいたいと思っている。

また、元気老人・元気高齢者をメインに出てくるような体制づくりが必要で、支えられる側でなく担う側に回れる仕組み作りが必要かと思う。

(事務局)

市町村の支援については、御意見のあったことを認識しつつ進めていかなければならないと思う。

また、定年を迎えてもアクティブに活動する方もいるので、その方々に担っていただけるような仕組み等も考えていかなければならないと思う。生涯現役社会に向けた意識の醸成、高齢者が担い手となって活躍する地域づくりの推進のため、いろいろな施策に取り組んでいきたいと考えている。

(委員)

病気で動けない人達が周りにいて、見守りをしているが、家庭の事情で申告・介護の申込をしてもらえない方について、どうしたらいいかわからない。自己申告のできない高齢者の人達のため、どのような対応をしたらいいか教えてほしい。

(事務局)

地元の中に民生委員という方がいて、自分で声が出せない方のため、行政に繋げてくれる。また、地域包括支援センターではコーディネーター、ケアマネがいるので、ご近所の方から市にお話しただければ市から調査がいくので直接繋いでいただきたい。